

2016年度 第1回組織神学研究会 「2015年長老会神学大学校神学声明」

洛雲海氏（韓国・長老会神学大学校助教授、セムナン教会協力牧師、日本基督教団派遣宣教師）



会場の様子と洛雲海助教授

7月1日、駒込の学校法人聖学院新館にて標記研究会が開催された。参加者は6名であった。洛雲海氏（韓国・長老会神学大学校助教授、セムナン教会協力牧師、日本基督教団派遣宣教師）が講演した。

当日の講演では演題にあるように、昨年発表された「2015年長老会神学大学校神学声明」（以下、「2015神学声明」）の内容を紹介しつつ、併せて声明文章に表現されている神学について解説がなされた。この声明は「2015年8月15日 光復節を迎えて 長老会神学大学校教授一同」として発表されている。韓国で8月15日は帝国日本の植民地支配から解放された、光復の日として記念され、とりわけ2015年は光復70年として覚えられる年であった。ただしこの度の声明は「政治声明」ではなく「神学声明」であることが確認された。

講演では、まず長老会神学大学校と聖学院大学との交流および関係について触れられた。続いて「声明」に至る前史として、長老会神学大学校が従前発表してきた、「1985年長老会神学大学校神学声明」、「2002年長老会神学大学校神学教育声明のための基礎文書」、2003年「21世紀長老会神学大学校神学教育声明書」が紹介された。そしてこれらの声明が発展的に「2015神学声明」へと受け継がれたことが説明された。

「2015神学声明」の内容については、韓国教会の危機的状況を踏まえ、「イエス・キリストの福音伝播と神の国の具現」を目的とする「統全的神学（holistic Theology）-オン神学（Ohn Theology）」を基盤とし、韓半島の統一、世界平和、正義ならびに公共性の追求、生態系の回復と保全、神の宣教（missio Dei）に基づく諸教会の一致、危機克服のための教育、世俗文化の変革などを念頭に置きつつ「聖書的・福音的神学に基づいたエキュメニカル神学」を志向するものとなっている。また韓国教会を越えて、世界の教会に仕えることが視野に入れられ、神学を通して対社会的・歴史的責任を担おうとする使命意識に支えられている、と解説された。

以上のような講演を受けて質疑応答では、「統全的神学」「オン神学」の性格について、また声明における教会論や文化価値論に主観的側面が強いのではないか、など活発な意見交換がなされた。11月の「日韓神学シンポジウム」開催に向けて、よき備えの研究会となった。

（文責：松本 周 [まつもと・しゅう] 聖学院キリスト教センター主事・聖学院大学講師）